



刊夕日四十月

衛生閑話 某醫師記 (三)

何の注射でも身体が弱ると誤り傳へられたは那邊よりかと考究しますれば假に胃腸等に激痛症狀あれば即時鎮痙鎮痛剤多くは酔酔剤を注射すると苦痛が數分を出でずして消退するが本人の特異体質によりて副作用的に恶心、嘔吐、頭重、頭痛、眩暈、全身倦怠感及び食慾不振、疲勞感の著しき症狀が來る事があるのを一概に身體が弱ると推測斷定して彼の全然別個の目的の

奇書
王閑話 (三)

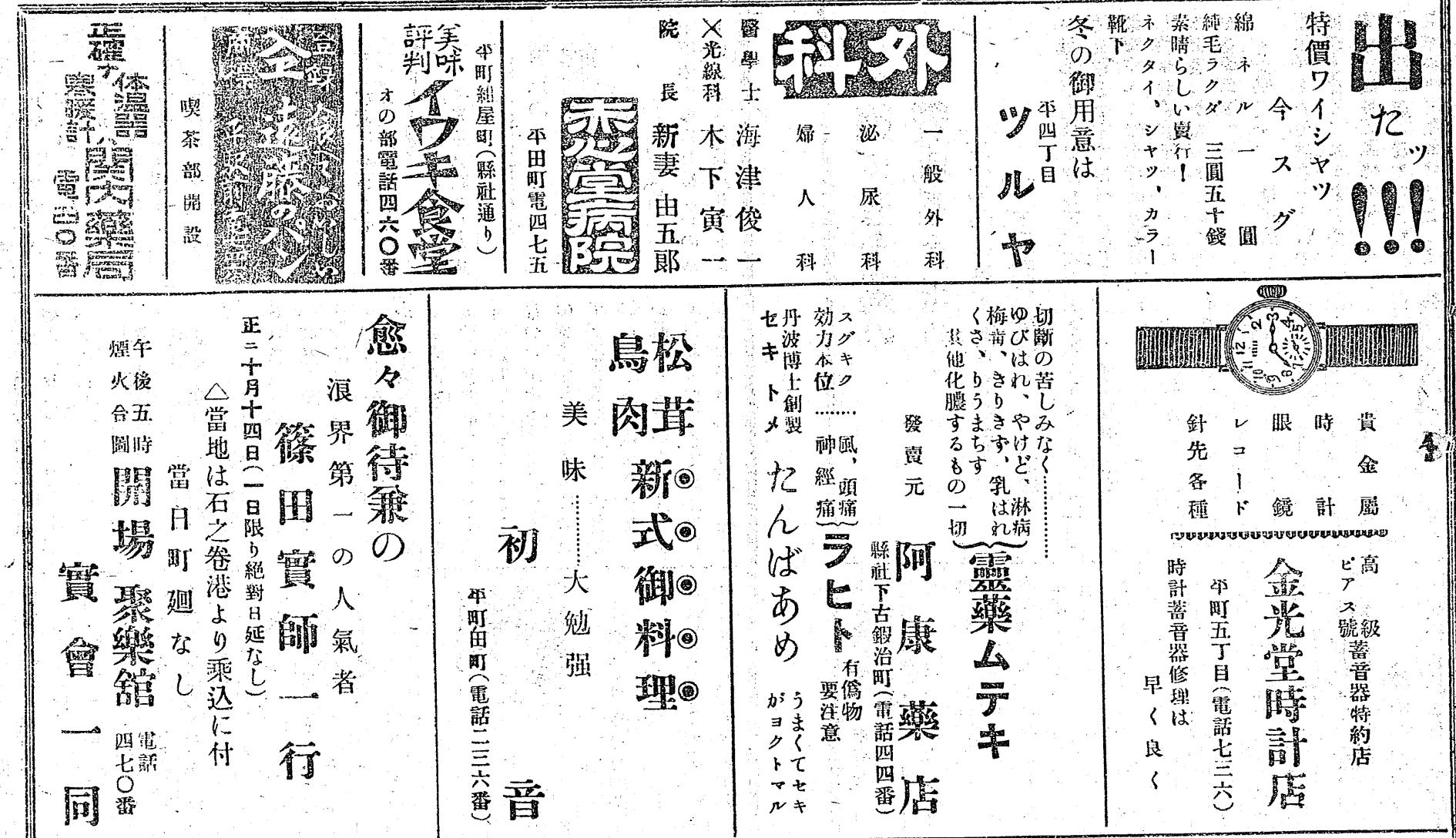
衛生閑話 某醫師記 (三)

何の注射でも身体が弱ると誤り傳へられたは那邊よりかと考究しますれば假に胃腸等に激痛症狀あれば即時鎮痙鎮痛剤多くは酔酔剤を注射すると苦痛が數分を出でずして消退するが本人の特異体質によりて副作用的に恶心、嘔吐、頭重、頭痛、眩暈、全身倦怠感及び食慾不振、疲勞感の著しき症狀が來る事があるのを一概に身體が弱ると推測斷定して彼の全然別個の目的の

う、病の容態如何によりて
は反覆摩酔剤の注射を行ふ
ことがあるが上記副作用の
ために心臓を弱め又身の疲
労を來す事がないでもない
が強心剤如きに時には二三
十分置き位に注射をしても
差支ないのみならず然續行
せなければ心臓並に身体を
保つ事が出來ぬ場合もある
斯る際は注射其物のために
直接身心の衰弱を來す弊が
ないのであるから宣敷混同
な詎しい因縁がある大海戦
と摩酔剤についての御話を

う、病の容態如何によりて
のと同一視せる結果であら
は反覆摩酔剤の注射を行ふ
ことがあるが上記副作用の
ために心臓を弱め又身の疲
労を來す事がないでもない
が強心剤如きに時には二三
十分置き位に注射をしても
差支ないのみならず然續行
せなければ心臓並に身体を
保つ事が出來ぬ場合もある
斯る際は注射其物のために
直接身心の衰弱を來す弊が
ないのであるから宣敷混同
な詎しい因縁がある大海戦
と摩酔剤についての御話を

なる英國の水師提督ネルソン將軍がトラファルガルの大戦に於て西班牙、佛蘭西の聯合艦隊を擊沈し功名赫々たる下に名譽の戰死を遂げたのは實に西暦千八百五年で今より百廿四年前の我文化二年であつた、然も此年に醫學上指導すべき「アルカロイド」の鼻視たる「モルヒネ」が獨乙の藥劑師セルチエネル氏に據つて發見された、さればネルソン將軍の戰死を回顧すれば永へに「モルヒネ」なる摩醉藥が弊想されるのである



七周年記念謝恩特賣

謹啓時下初秋の候貴家益々御多福の日幸賀仰
陳者弊店儀開業以來茲に七周年半素格別の御聲援御引
立に預り誠に難有御厚禮申上候就ては七周年を記念し
謝恩の微意を以て來る十月三日より十月十七日迄十五
日間左記特價を定め御用命御待ち申上候間此際多少共
御注文の程奉懇願候

弓張	丸形	上々	新規	七十	錢
全	上	新規	四十	錢	弓張
細長形	上	新規	六十五	錢	上々
弓	張	新規	三十五	錢	新規
弓	張	新規	六十	錢	七十
弓	張	新規	三十	錢	三十五
弓	張	新規	十	錢	三十五
弓	張	新規	一	錢	五
尚	消	方	火	水	其
方	火	水	等	等	他
消	方	火	水	等	並
尚	方	火	水	等	物
尚	方	火	水	等	持
尚	方	火	水	等	御
尚	方	火	水	等	相
尚	方	火	水	等	談
尚	方	火	水	等	可
尚	方	火	水	等	申
尚	方	火	水	等	候

スガノヤ提灯店
福島縣平町四丁目電話七二二番

當店小賣部開設として特賣致します
磬城炭礦一等塊炭 正味十貫目金六十錢の
炭價は日に日に向上致しますが今回特に金六十五錢の

品を金六十錢に値下致す次第です
◎目方ノ正確ハ、品質ノ優良ハ、當店ノ特色デス
電話二三七番ヘ、配達ハ一儀ヨリ致シマス

阿部石炭商店

學生服	
服もなかやで	
自信を持てお獎	
生地裁縫共に申	
倉服です	
(長ズボン付)	
歳用 1圓80銭	
歳用 2圓00銭	
歳用 2圓20銭	
二歳用 2圓40銭	
三歳用 2圓60銭	
用 生	
年生位 4圓20銭	
年生位 4圓40銭	
年生位 4圓60銭	
年生位 4圓80銭	

一学用品を

平第一校生徒の申合せ

平第一小学校では此程同校各學級の兒童から組織されて居る組長會を開き兒童同志が實行すべき事項について

協議を重ねた結果

左の如く實行事項を申し合せた同校では兒童が自然に強ひられる事なしに良風を涵養する一つの手段とし學生會、級會、組長會等を隨時開催して兒童等が實行させる様に勤めて居りその結果は模範的教育

法として父兄から非常に期待されてゐるが父兄や或は兒童同志が申合せてお互に實行する方が遙かに効果が多い場合が多いので今度の此の申合せも兒童同志をして實行させる由である

△實行申合事項

一、毎朝神佛を禮拜しませう
一、貯蓄に努めませう
一、火元に注意し災害を防止しませう
一、國產品を愛用しませう

一、國祭日には必ず國旗を掲げませう
一、學用品を節約しませう

一、毎朝神佛を禮拜しませう

半町の磐城銀行は昨報の如くいよ／＼單獨開業するに

磐銀の

資本金を

三分の一

勿來關に義家神社を造營

全國に五十萬の賛成者を求めて

勿來關に義家神社を造營

史蹟名勝勿來の關に古代文化史蹟と義家の忠誠を追慕

顯彰すべく勿來神社を造營し將來別格官幣社たらしむる計畫は既報の如く東都田中智學氏等の

主唱にて 德川公小笠原子その他諸名士十餘名

發起となりこれが創立委員會を這般地元關係町村たる勿來植田並に湯本の各町及茨城縣平瀬關本村等より代

工費百萬圓の大計劃

表者列席東京に開催協議を

及内務省に認可申請を提出し來春四月の櫻花期に起工

式を擧ぐべく準備中である

が工事は七ヶ年の豫定で風光と結構との調和を得ば櫻花に満ちてゐるだけに天下に冠絶するものとなるべく非常な期待をつぶがれてゐる

平町五丁目詩南車にては来る

狂歌會を開く

詩南車主催

諸名家から

公の甲冑名劍を神寶として奉納する事となつており地元町村はいよいよ躍氣となつて諸準備に狂奔中である

以上の方針であると尙源氏の

以上の方針であると尙源氏の

以上の方針であると尙源氏の

以上の方針であると尙源氏の

以上の方針であると尙源氏の

以上の方針であると尙源氏の

以上の方針であると尙源氏の

は相當當局者並に保護者としても困難の模様であるが極力實行することになつた協議事項左の如し

△中等學校生徒の活動寫眞學生デーの男女は毎土曜日の午後一時より人館する各學校のバザー等の催

し毎に男女生の接近する機會を與へないこと

△各學校のバザー等の催

し毎に男女生の接近する機會を與へないこと

△各學校のバザー等の催

し毎に男女生の接近する機會を與へないこと

△各學校のバザー等の催

し毎に男女生の接近する機會を與へること

△各學校のバザー等の催

し毎に男女生の接近する機會を與へること

子息の慶事

大審院判事の

令嬢を迎えて

本社營業部主任綠川松太郎

氏令息横濱裁判所判事法學士

事織田嘉七氏令嬢露子と婚

姻成り十五日午後二時日比

谷大神宮に於て華燭の典を

挙げ夫れより東京會館に於

て披露の宴を張ると因に新

郎は東京帝大法科に在學中

高等文官及び判檢事試験に

合格せる秀才、新婦は東京

實踐女學校高等部出身の才媛であると

江名繁縝實行

冠婚葬祭に

酒類を嚴禁

五名の鮮人

選者左の如し

十五日前十時新聞社員立

優秀なる當選率を示し發表

以後賞品をウエンドーに陳

列してあつたがいよ／＼明

十五日前十時新聞社員立

優秀なる當選率を示し發表

五名の鮮人

選者左の如し

十五日前十時新聞社員立

優秀なる當選率を示